

一戸町・九戸村で災害V.Cを設置

令和4年8月3日からの大雨により、県北を中心に土砂崩れや河川の氾濫、床上浸水などの被害が発生しました。岩手県社会福祉協議会と一戸町社会福祉協議会、九戸村社会福祉協議会では、8月8日に災害ボランティアセンター（以下「災害V.C」）を設置し、関係機関・ボランティアの協力のもと被災者の支援に取り組みました。今回、一戸町災害V.Cの運営に携わった一戸町社協の関上祐児事務局長と受付を担当した高橋未羽主事補、そして、被災された住民の方にお話をお聞きしました。

町内各所で住家被害や土砂崩れなど発生

―被害状況や社協の様子についてお聞かせください。

関上事務局長：一戸町で最も被害が大きかった小繋地区では、小繋川が氾濫して川の南側が浸水しました。町全体では住家被害（床上浸水17棟、床下浸水29棟※9月1日時点）や土砂崩れなどの被害が発生しました。また、平糠地区では、土砂崩れによる道路の一部通行止めが発生し、一時的に孤立状態となりました。

一戸町社協では発災当日から、災害V.Cの立ち上げについての相談と準備を進めました。また、通常業務として実施している病院への送迎を行う外出支援サービスの利用者で、大

雨で利用者を帰宅する手段がなくなった方について、町と情報を共有して安全に自宅へ帰すための対応を行いました。

―災害V.Cを立ち上げて、住民の反応はどうでしたか？

高橋主事補：災害V.C設置後、テレビや社協・役場のホームページを見聞きして、自ら声を上げた住民や、民生委員からの情報で支援に入ることになった人など、災害V.Cには全部で30件の作業依頼が寄せられました。ご家族や地域など、自分たちで作業を終えたところもあるみたいです。男手4人で大きな家財を運んだというところもあったので、ご高齢の世帯だと自分たちで作業するのは難しいと思います。お盆の時期に

帰省された息子さんが、作業をお願いするケースもありました。

ボランティアのありがたさと今後の課題

―大雨が降った当時の状況はどのようでしたか？

被災住民：仕事から朝帰ってきたのですが、川の水が一気に増えてきて30分の間に家の中に入ってきました。床板はもうぶよぶよで使えません。全部乾かさないとカビが生えるので、床板の釘を抜いて剥がしました。前の日に一人で3時間かかった作業をボランティアの方たちは1時間で済ませてくれたので、すごいパワーだと思いました。

―今回の災害V.Cの設置・運営で感じたことなどお聞かせください。

関上事務局長：ボランティアの参加者数は、マスコミの取材やいわてNPO災害支援ネットワーク（INDIS）の方々からの積極的な声掛けもあり、役員職員含めて延べ378名となりました。東日本大震災で被災経験のある方や、東京や宮城からも駆けつけてくれた方がいました。縁もゆかりもない土地ですが、来てくださるのはすごくありがたいです。

す。そういう方たちがいるからこそ、助けられました。一方で、発災直後、被害の大きさやボランティアの需要について周知が行き届かず、ボランティアがすぐに集まらなかったことが課題となりました。また、1日だけではなく、3〜4日間などのように継続してボランティアに参加する方もいましたが、被害を受けてからすぐに作業に入るのではなく、ボランティアの安全性を確認したうえで作業に入ることを住民に理解してもらうことも必要でした。



災害ボランティアセンター（VC）についてご紹介

災害が発生した際、社会福祉協議会では、被災された住民の不安を取り除き、普段の暮らしが早期に回復できるようにするため、災害VCの開設・運営を行っています。

災害VCは、社協だけではなく、行政やNPOなどの関係機関・団体、ボランティアなどと連携して支援を行います。

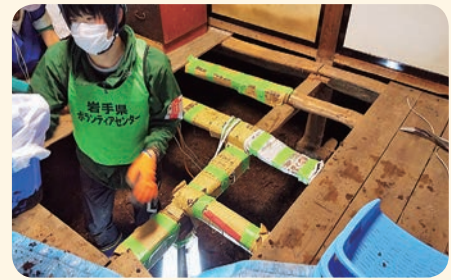
■災害VCの役割と機能

【3つの役割】

- ① 住民が自主的に復旧・復興できない箇所の復旧・復興支援を行います。
- ② 原則として、被災住民の衣食住が確保され、仮設住宅の整備等により、家族単位で生活を営むことができるまでの支援を行います。
- ③ 住民の力を引き出すための自立支援を行います。

【6つの機能】

- ① 被災者のボランティアニーズの把握
- ② 災害ボランティアの受け入れとボランティア保険加入手続
- ③ 災害ボランティアと支援を必要とする住民のコーディネート
- ④ 被災状況、災害ニーズの把握と関係機関への情報提供、支援要請
- ⑤ 災害派遣福祉チームと連携の上での、高齢者、障がい者等支援者の状況確認
- ⑥ その他、被災状況、時期により必要と認められるもの



災害 VC 事務局の動き	ボランティアの動き
<p>8:00 全体及び各班（ニーズ班、マッチング班、ボランティア受付班、送り出し班、資材班、総務班）のミーティング 前日の活動内容、当日の活動予定、支援団体の紹介 気持ちを一つにする機会とする</p> <p>受付、備品等の準備（テント・テーブル等の設置）</p> <p>当日活動者のボランティア受付開始</p> <p>オリエンテーション・ボランティアの送迎</p>	<p>8:45 受付・活動準備 ビブスを着用し、活動の注意事項を確認しておく 手指消毒・マスク着用・検温等コロナ感染対策も</p>  <p>オリエンテーション、活動内容の確認</p>
<p>10:00 各班の業務 災害VCの要望確認（職員派遣、資機材） 県社協本部及び関係機関との連絡調整</p>	<p>10:00 資機材受け取り 現地へ移動し、ボランティア活動を開始する ※適宜、休憩・水分補給を行う ※メンバーとのコミュニケーションは積極的に</p>
<p>14:45 ボランティアの送迎開始</p> <p>15:30 資機材の洗浄</p>  <p>ボランティア活動報告の聞き取り</p>	 
<p>16:30 各班のミーティング</p> <p>17:00 全体ミーティング ・センター長あいさつ ・各班からの報告 ・問題があれば対応策の検討 当日の活動内容、翌日活動予定、積み残しニーズの確認や気づいたことを共有する</p> 	<p>15:00 センターへ移動 資機材を洗浄し返却する</p> <p>ボランティア活動報告 ※活動の開始・終了は時間厳守で行う</p> 
<p>17:15 各班の業務 ※終わり次第解散</p>	<p>16:00 終了</p>

※写真は過去の災害発生時のものを含みます。